

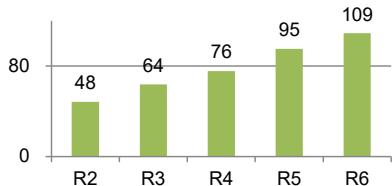
1 生涯学習支援

「リアルなモノ・コト・ヒトとの触れ合いに基づく多様な学び」と「生涯を通じて学び続けられる場」をすべての人に提供する。

1 総利用者数

本館利用者数、連携施設利用者数、主催アウトリーチ事業、共催・協力事業の参加者数、外部依頼講演参加者数

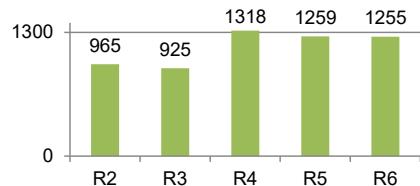
中期目標: 80万人/年
令和6年度: 109万人 (136%)



2 セミナー実施件数

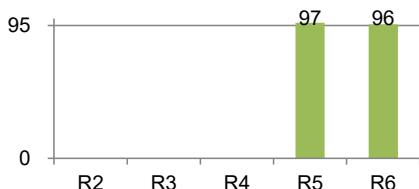
館主催プログラム(一般セミナー+オープンセミナー+特注セミナー)の実施件数

中期目標: 1,300件/年
令和6年度: 1,255件 (97%)



3 セミナー受講者満足度

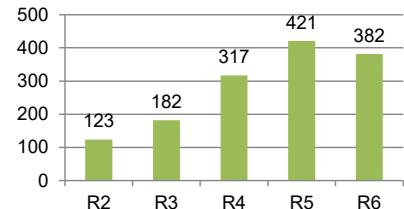
中期目標: 95 %
令和6年度: 96 % (101%)



4 主催アウトリーチ事業実施件数

館主催アウトリーチ事業(キッズキャラバン+学校キャラバン+その他キャラバン)の実施件数

中期目標: 50 件/年
令和6年度: 382 件 (764%)



令和6年度の達成状況と自己評価

総利用者数は 109.3 万人、前年度比 136% でした。この主因は、共催・協力事業参加者数が大幅増となつたためですが、本館入館者は、前年度比 94.9% の 17.4 万人で、約 9 千人の減少でした。また、館主催プログラム数は、1,255 件、前年度比 99.7% で微減ですが、コロナ禍以前の状況を概ね維持できるようになってきました。セミナー受講者の満足度は 96% で高水準を維持しています。

令和7年度の取組に向けて

学校団体等の受け入れ時に、学校等の要望に合わせた学習プログラムを提案し、特注セミナーの利用率を高めています。また、来館者や地域の方々のダイバーシティに配慮した、インクルーシブな学習支援サービスもさらに充実させていきたいと考えます。引き続き、標本・資料や身近な自然を活用した学習プログラム・学習教材を提供し、「ひとはく」の利活用を促すとともに、効果的な情報発信・広報活動によって、総利用者数が増加するように努めます。

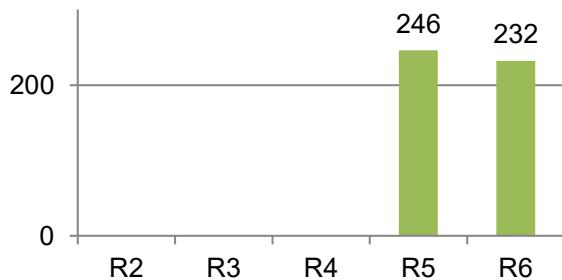
2 人材育成と活躍の場の整備

自然・環境・文化の継承に取り組む担い手の成長と活動を支援し、多様な主体との連携を強化する。

1 連携団体数

連携活動グループおよび様々な連携事業の相手先を含む団体数

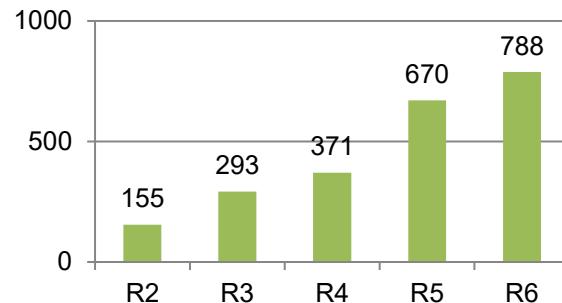
中期目標: 200 団体(R9まで)
令和 6 年度: 232 団体 (116%)



2 連携事業実施件数

主催アウトリーチ事業、共催・協力事業、館内連携事業の実施件数

中期目標: 170 件/年
令和 6 年度: 788 件 (463%)



令和 6 年度の達成状況と自己評価

担い手の要ともいえる地域研究員の登録者数が、目標値の 60 名を超えて 62 名となりました。連携活動グループの登録数も、あと一歩のところまで来ています。連携団体や連携事業の実施件数も順調に伸びています。とはいえ、博物館活動の活性化・発展させていくためにも、新たな仲間づくりは重要です。アウトリーチ事業やシンクタンク活動等を通じてひとはくと連携したいと考える人々を掘り起こし、関係を構築していくことが求められます。

令和 7 年度の取組に向けて

令和 7 年度は、兵庫県内全市町にアウトリーチに出向くという目標が達成見込みです。地域連携セミナーについても、現在実施中の南あわじ市、たつの市の他、養父市で実施の検討を始めています。一方で博物館事業は、研究・展示や資料整理、シンクタンク活動等、多岐にわたります。違った強みをもつ職員の能力をどのように生かして博物館のパフォーマンスを維持・向上していくのか、検討が必要です。

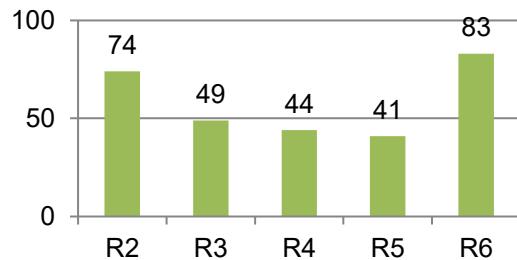
3 研究・シンクタンク活動

自然・環境・文化の継承に資する先導的・独創的な研究・シンクタンク活動を展開する。

1 学術論文・専門図書数

学会等の査読を経て掲載された学術論文と専門図書数

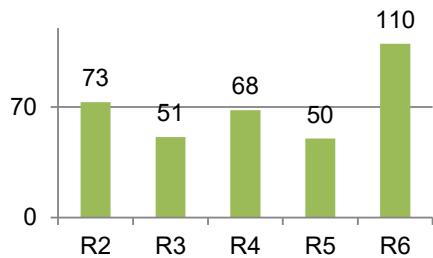
中期目標: 50本/年
令和6年度: 83本 (166%)



2 県政課題関連論文・著作・研究発表

県内を対象とした学術論文、著作および研究発表の件数の合計

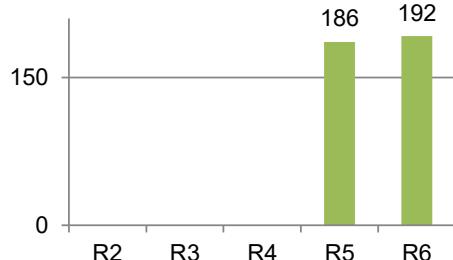
中期目標: 70件/年
令和6年度: 110本 (157%)



3 委員・アドバイザー等件数

国・県・市町関連の委員会参画数

中期目標: 150件/年
令和6年度: 192件 (128%)



令和6年度の達成状況と自己評価

研究活動について、「学術論文・専門図書数」は、大幅に目標値を越え、研究助成金獲得数や獲得金額も例年よりも高い結果となりました。従来から伸び悩み傾向の「県政課題論文・著作・研究発表数」も、多くの研究員が執筆する図書刊行の影響により、目標値を大幅に達成しました。また、シンクタンク活動についても、「委員・アドバイザー等件数」のほか、受託研究件数なども例年並みの高い達成率となっており、当館のシンクタンク機能が十分発揮されているといえます。

令和7年度の取組に向けて

本年度は、新任研究員が多く着任されたことから、昨年度を上回る成果を期待します。一方、行政等とつながりを有する研究員の退職にともない、県内地域での研究やシンクタンク活動の低下が見込まれます。若手研究員向けの県内視察会の企画などにより、地域と連携した研究・シンクタンク活動の促進を図ります。

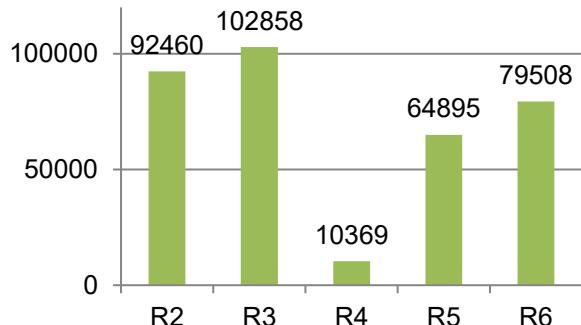
4 標本・資料

標本・資料の「収集・保管機能」と「デジタル・アーカイブ化」を強化し、標本・資料から得られる価値を最大化する。

1 標本・資料の登録点数

「ひとはく資料データベース」への年間登録件数

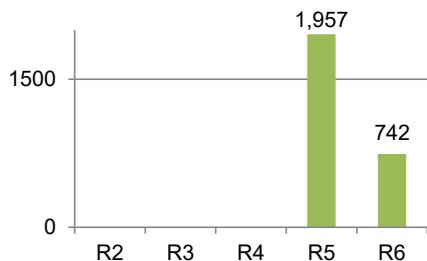
中期目標: 20,000 点/年
令和 6 年度: 79,508 点 (397%)



2 標本・資料のデジタルデータ登録点数

植物標本、昆虫標本、地学系標本、古写真データの登録点数の合計

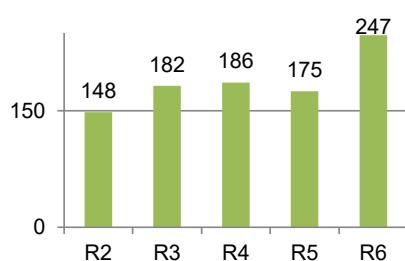
中期目標: 1,500 点/年
令和 6 年度: 742 点 (49%)



3 標本・資料の利活用件数

研究活用、館外展示、セミナー、研究、貸出件数、マルチメディア等データ提供件数の合計

中期目標: 150 点/年
令和 6 年度: 247 点 (164%)



令和 6 年度の達成状況と自己評価

資料データベースへの登録点数、資料の利活用件数は、目標を上回って順調に推移しています。デジタルデータ登録点数は博物館法の改正に呼応して今中期目標から新たに目標として加えましたが、達成度は 49% でした。目標達成には予算措置も含めた何らかの手立てが必要な状況となっています。

令和 7 年度の取組に向けて

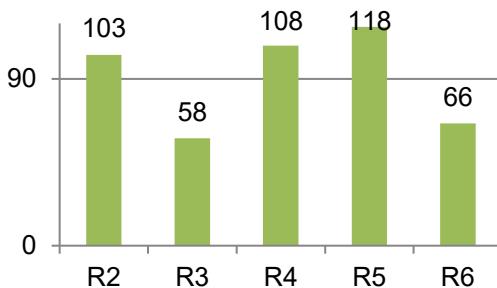
5 マネジメント

「情報発信の強化」と「マネジメントの最適化」を促進し、目指すべき博物館像の実現を図る。

1 HP アクセス件数

当館ホームページへのアクセス件数

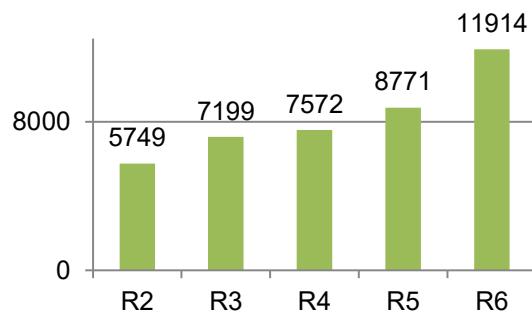
中期目標: 90万件/年
令和6年度: 66万件 (73%)



2 外部資金獲得金額

研究助成金、受託研究費、事業活動助成金の合計金額

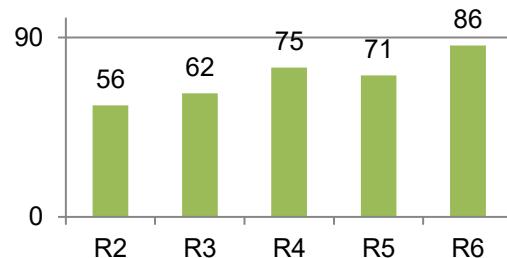
中期目標: 8,000万円/年
令和6年度: 11914万円 (148%)



3 中期目標の達成度

当該指標以外の総指標数に対する「達成率 90%以上の指標数」の比率

中期目標: 90%
令和6年度: 86% (95%)

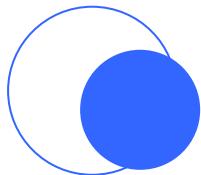


令和6年度の達成状況と自己評価

新しい中期目標のもと、2年目の達成度をみると順調に博物館活動が展開できていると判断できます。とくに、主催アウトリーチ事業件数、連携事業実施件数が、目標値を大きくクリアして高い達成度となっています。ひとはくが、館内にとどまらず、多様な主体と連携しながら県内外で広く活動を展開できている結果であるといえます。

令和7年度の取組に向けて

令和7年度は、ひとはくの利用者の目線に立ち、多様な活動をよりわかりやすく、さらにひとはくをより使いやすくするために、生涯学習支援の活動の枠組みをリデザインしていきます。また、本館の展示のあり方についても検討を進めています。



タスクフォース事業

従来の組織群とは別に、短期の課題を達成するために平成 20 年度からタスクフォース制度を導入しました。各タスクフォースはリーダー・サブリーダー・メンバーで構成し、課題の達成状況に応じて年度途中でも人員は変更可能です。また新たなタスクフォースを発足できるようにしています。

■ 恐竜タスクフォース 令和 6 年度の主な事業

(1) 篠山層群化石を活用した地域活性化を目指す人材育成システムの構築

篠山層群から産出する化石の調査・研究をさらに推進し、その成果を活用するため、人材育成（発掘・剖出・普及教育）の体制を強化する。複数年をかけて持続可能な人材育成循環システムの構築を目指す。最終的には、ボランティア人材の登録 100 名体制を目標に、将来的に持続可能な人材育成システムの基盤をつくる。その基盤づくりに向けて、以下の事業を実施した。

1-1. 人材育成

発掘（石割）ボランティア：市民参加型発掘を実施し、新たな化石資料の発見、また調査に参画する人材の育成に努めた。新規登録人数は 16 名。総登録者数は 176 名（R.7.3 月現在）。これまでに行われた調査の参加者は延べ 1538 名。

剖出ボランティアの育成：恐竜ラボで受け入れ、剖出に携わるボランティア人材を育成している。新規登録人数は 3 名。現登録人数は 33 名（R.7.3 月現在）。これまでの参加者は延べ 1781 名 4575 時間。

普及教育ボランティア：「ひとはく化石専門指導員」の認定制度を設け、普及教育に携わる人材の育成に取り組んでいる。R6 年度の新規登録者数は 3 名、現登録者数は 25 名。

1-2. 市民参加型発掘調査

川代トンネル岩碎を対象とした市民参加型発掘を 5 月にひとはく・ジーンファーム、11 月に県立丹波並木道中央公園で各 2 週間程度実施し、新たな化石資料の発見、また調査に参画する人材の育成に努めた。調査日数は計 24 日間。参加登録者は 48 名。参加人延べ数は 117 名。

(2) 研究

丹波竜に代表される篠山層群産の脊椎動物化石の研究を中心に、国内外の大学・研究機関等と協働して推進し、将来の研究拠点形成を視野に、研究実績の蓄積や地域づくり活動支援の強化を進める。

・関連論文 3 件 (*Hypnovenator* の記載報告 : *Scientific Reports* , *Sasayamagnomus* の記載報告 : *Papers in Palaeontology*, その他)

・研究発表 3 件 (日本爬虫両生類学会、日本古生物学会)

(3) 普及事業

恐竜化石等の調査や研究内容をセミナーの開催や展示等を通じて広く公開する。

3-1. 展示

- ・臨時展示「和田式エアースクライブ 化石クリーニングにおける到達困難な空間への挑戦」(R6 3/1 - R6 9/1)
- ・臨時展示「ヒプノヴェナトル～眠る狩人の発見～」(R6 7/27 - R7 1/13)
- ・臨時展示「ササヤマグノームス 篠山の地下に隠された財宝を守る小人」(R6 9/4 - 11/10)
- ・その他展示 4 件 (協力 : 丹波市立丹波竜化石工房 1、あわじグリーン館 1、国営明石海峡公園 1、共催 : 丹波篠山市立太古の生きもの館 1、)

3-2. 普及教育

- ・篠山層群産の恐竜・脊椎動物化石に関する各種セミナーや発掘体験会等を実施（恐竜TF所属研究員の個人成果を参照）。
- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会と共同で、地域の地形・地質や化石に関するミニツアー、ミニ展示、研究員による講義等を行うイベント「ジオの教室 in 丹波」を丹波市・丹波篠山市で計6回実施した。

（4）地域支援

平成22年度に締結した「篠山層群における恐竜・ほ乳類化石等に関する基本協定」に基づき、地域支援を展開している。平成27年度から丹波県民局が主導する「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム」事業が始動し、その活動を支援している。

4-1.

- ・丹波竜化石工房リニューアルにむけた各種支援（協力）
- ・丹波竜フェスタの開催（協力）

4-2. 各種事業への参画

- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会 2回（R6 6/18, R6 3/31）
- ・丹波市主催する試掘調査への参画（運営・調査協力）

（恐竜タスクフォース 池田忠広・田中公教・石田弘明・半田久美子・廣瀬孝太郎・久保田克博・生野賢司）

■ D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）タスクフォース 令和6年度の主な事業

令和4（2022）年10月に策定された「ひとはく将来ビジョン」において、当館のD&Iの取り組みをさらに充実させることができたことが示され、令和5年度にD&Iタスクフォースが新設された。当タスクフォースでは、すべての人に「地域を愛する心を育み、地域の自然・環境・文化を継承する」ことに関わっていただけるような環境を整えること、全ての人々が自然・環境・文化に触ることで、何らかの感情が揺さぶられ、その結果、その人の人生の豊かさに繋がる何かが得られるようなサポートを推進することを目指している。

（1）誰もが過ごしやすい館内環境の整備の推進

令和5年度に実施したユニバーサルの観点による展示・設備の点検の結果に基づき、誰もが過ごしやすい館内環境の整備を順次進めた。常設展示の解説文の多言語化については、従来の館ナビシステムから変更し、多言語（英語、中国語、韓国語、日本語）による解説文を掲載したWEBサイトに誘導するQRコードを整備した。

また肢体四肢に重度な障害のある方が必要な日常的な医療的なケアや気持ちを落ち着かせるカーミダウンのための場所を確保するため、展示室3階に「ケアルーム」を、展示室2階に「ケアスペース」を新設すると共に、4階の救護室をケアルームと兼用する整備を行った。ケアルーム・ケアスペースの整備にあたっては、ひまわり特別支援学校の児童・生徒、教員に助言をいただいた。

当館で勤務する全職員がD&Iに取り組む際に心掛けるべきことについて記載したドキュメント「ひとはくD&Iガイドライン（仮称）」の策定をすすめた。年度末までに素案を作成、意見交換会を開催し、館内意見の集約を行った。R7年度はこれら意見を踏まえて、理念的部分を行動規範として先行して策定し、具体的な行動については行動ガイドラインとしてまとめる方針とした。

（2）特別な支援ニーズのある人々との直接的なコミュニケーション

当館の近隣にあるひまわり特別支援学校（肢体四肢に重度の障害を持つ児童が多い）との連携を深め、ひまわり特別支援学校中等部の当館への遠足に帯同し、ニーズの把握に努めた。

神戸大主催の「三田市における障害者の生涯学習推進をめぐる懇話会」(三田市内で支援活動を行っている団体や当事者団体、行政、施設による懇話会)への参加や三田市手をつなぐ育成会との対話を進めた。このことにより、成人障害者の生涯学習の支援についての見識を深めると共に外部団体との関係性構築に努め、多様な特性を持つ方々の来館を促し、自然・環境・文化について親しみ・愉しんでいただけるようするため当館として実施できることの示唆を得た。

(3) 誰もが楽しめる展示・イベントの実施

プレミアム芸術ウィークにあわせ岩石・アンモナイト化石、地形模型、中型哺乳類の毛皮、貝殻、植物の葉っぱ(水差し)などを研究員と対話しながら触れて楽しむ触察展示イベントを実施し、開催期間中はコレクションナリウム史上で最も多い来場者となった。一方、特別支援学校等へのチラシ配布を行ったものの、支援学校等の児童・生徒等の来場は少なかったことから広報のあり方の再検討や様々なステークホルダーとの定期的な交流、ふだんから来館しやすい環境づくり、アウトリーチ展開の必要性が認識された。

(4) 日本語を母語としない方々へのアプローチ(多文化交流)

兵庫県国際交流センターにヒアリングを行い、留学生の現状を把握すると共に、協働で実施できるメニューの検討材料を収集した。三田市を中心に北摂地域内で多文化共生の取り組みを推進するNPO法人場とつながりの研究センターより当館の展示や普及活動に関する取材を受け、当研究所の定期刊行物「つながり」(日本語、英語、ベトナム語の3言語での情報発信媒体)の2025年5-6月号の記事掲載につなげた。

(5) 職員の資質向上のための取り組み

館内職員を対象としたD&Iゼミ(D&Iに関する書籍紹介および上半期の館のD&Iの取り組みの共有)を実施した。また、兵庫県立大学自然・環境科学研究所との共催により外部講師3名を招いた研修会「ダイバーシティの本質とソーシャルインクルージョンの理念を学ぶ」を開催した。令和5年度に引き続き、職員の資質向上に役立つ書籍を購入し、自主学習教材の充実化を図った。

館内メーリングリストを用いて、兵庫県博物館協会や全日本博物館学会などの外部団体が主催するD&Iに関連する講演・セミナーの開催情報や、障害者差別解消法をはじめとする各種法律に関する情報を全館員に対して不定期に提供した。

(6) 当館D&I活動の対外的発信

全国科学博物館協議会第32回研究発表大会(令和6年度)において、「特別支援学校との協働によるケアルームの設置ー誰もが愉しみやすい博物館の環境づくりー」を発表した。

(D&Iタスクフォース 橋本佳延・廣瀬孝太郎・藤井俊夫・福本 優)

■ Kidsタスクフォース 令和6年度の主な事業

(1) ふるさと兵庫こども環境体験推進事業(ひょうごエコロコプロジェクト)の実施

ひとはくでは兵庫県環境部環境政策課と連携し、県内の全幼稚園・保育所・認定こども園等(約1,500園)を対象に乳幼児期のこどもたちへの環境体験機会の創出と環境体験が継続的に実施できる仕組みの構築を目指し「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業(ひょうごエコロコプロジェクト)」を令和元年度より開始した。この事業の中核を担う専門人材として、「こども環境体験コーディネーター」(2名)及び「こども環境体験スタッフ」(1名)の職種を設置し、令和6年度は以下の事業を展開した。

1-1. 環境体験事業の実施

- ・しぜんたいけん(訪問タイプのプログラム) 実施園数: 109園

研究員やこども環境体験コーディネーター、こども環境体験スタッフが園に訪問して、園庭や近隣公園等の動植物を用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。

- ・たいけんデビュー（訪問タイプのプログラム） 実施園数：137園

園に訪問して、ダンゴムシさがしなど、環境体験の導入的なプログラムをこどもたちへ提供。

- ・しぜんえんそく（遠足タイプのプログラム） 実施園数：46園

県立公園等で園の遠足を受け入れ、ひとはくスタッフや各施設のスタッフが虫やどんぐりなどを用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。

- ・親子参加型のプログラム 参加したこどもの園数：107園

親子で参加する自然体験機会を提供。

- ・エコロコ BOX の貸し出し園数：33園

拡大装置等の自然体験を支援するセット「エコロコ BOX」を貸出。

1-2. 人材育成事業の実施

- ・エコロコかふえの開催 参加園数：36園

現役の幼稚園教諭や保育士等へ園での自然体験実践につなげるための仲間づくりとノウハウを学ぶ機会を複数回様々な地域で開催。

- ・園の先生向けの研修 参加園数：138園

園の先生へ園庭や近隣公園の自然を活用するノウハウなどを提供。

1-3. コンテンツ開発

- ・自園プログラムの開発

各園での取り組みを促進するためのコンテンツ「おはな みつけたよ 園庭のはなずかん」の制作・配布・配信。

- ・ホームページやメーリングリストで配信

ネットワークを拡げるため、専用ウェブサイトや園の先生の会員メーリングリスト等で配信。

（2）Kids キャラバンの実施

移動博物館車「ゆめはく」(2t トラック)を活用したキャラバン事業（アウトドア活動）として、幼稚園や保育所、認定こども園などを訪問した。ゆめはくでの昆虫標本の展示と、ティラノサウルスの頭骨レプリカ&化石をさわってみよう、デジタルマイクロスコープでの生きもの等の観察、キューブパズル（ひょうごの昆虫・丹波の恐竜化石）の4つのプログラムを行った。今年度は285園から申し込みがあり、このうちKids キャラバン第1希望の113園から選考し、20園で実施した。

（3）Kids サンデーの実施

月の第1日曜日を「Kids サンデー」と呼び、小さな子どもとその家族向けのプログラムを実施している。今年度は計11回（4/28、5/5、6/2、7/7、8/4、9/1、10/6、11/3、12/1、1/5、3/2）実施した。

（Kids タスクフォース 半田久美子・小館誓治・八木 剛・大平和弘・辰村 純・河田麻美・杉浦千加子）

■ 次世代タスクフォース 令和6年度の主な事業

（1）次世代を主な対象としたプログラムの拡充計画と実施

次世代（高校生や大学生）の学びを主眼としたプログラムの充実に向け、以下の「学びを伝えることによる学び」の機会創出や、「指導者に向けた学習」を支援した。また、「オンラインを活用したより専門性の高い学び」や「出張による探究支援や授業設計」を通じて、地域的・時間的制約を超えた学習機会の提供を目指した。

1-1. 高校生・大学生による館内イベント・セミナーの実施

三田祥雲館高校生徒によるオープンセミナーや、関西学院大学学生によるイベントの開催等、若年層主体の発信機会を提供した。受動的な学習にとどまらない、次世代の担い手がセミナーやイベント等を企画・実施できるようサポートを通じて、学びを人に伝えることによる成長機会を創出し、能動的な学びを実践する場としての機能拡充を目指した。

1-2. 教職員・指導者セミナー（高校教員向け）の拡充

高等学校のカリキュラム改定等に対応した教職員・指導者セミナーを実施した。具体的には、表計算ソフトを用いた進化モデルや、生物統計についてのセミナーを実施した。このほか、論文の読み方やデータ解析法などについて解説することで研究活動を支援するセミナーを実施した。また、一部の指導者向けセミナーを一般枠として夏休み以外にも実施し、対象層を拡大した。

1-3. オンラインセミナー「研究員による研究ばなし」

研究員が自分のテーマを専門用語も交えて紹介するセミナーを4週にわたり実施した。このセミナーでは内容を平易にするのではなく、研究に取り組む際の姿勢や専門的な知識を前提とした話題といった一般向けのセミナーとして取っつきにくく感じられるような内容もあえて盛り込むことで、研究者というキャリアや研究の最前線を伝えることを目的とした。

1-4. 出張授業・招待講義

高等学校4校で計8件の出張授業等に取り組んだ。主に理科探究・総合探究の授業設計と実験指導を支援した。

（2）次世代との関わりに向けた方針の策定

過去2年間のデータ収集および検討の結果に基づき、報告資料をとりまとめた。資料は館内で公開するとともに、報告会を実施した。また、同内容をもとに、兵博協の研修講師派遣、サイエンスフェアにブース出展した。

2-1. 報告会（3月21日実施）

「ひとはく次世代育成のこれまでとこれから～データと提言～」と題して、とりまとめた内容を報告し、参加者間で議論した。

2-2. 令和6年兵庫県博物館協議会（兵博協）の研修における話題提供（2月26日）

研修に講師を派遣し、取組内容を共有した。

2-3. サイエンスフェア in 兵庫へのブースに出展（1月26日）

会場に参加した高校生や教員に対して学習支援方針について広報した。

（3）高校連携・研究支援

次世代の学びにおいて、大学のみならず、自ら課題を設定し、情報収集し、分析し、まとめるといった探究学習がより強く求められるようになったことを背景に、中高校等の学校現場における高まる研究指導の需要に対応するため、下記事業に取り組んだ。

3-1. 中学校および高校における研究活動への指導のあり方についての検討

県立大学附属中学校でのプロジェクト学習の支援を事例に、館員内で情報と課題認識を共有するとともに、博物館をこれまで以上に利用しやすくするためのあり方を検討した。

3-2. 個別研究相談対応

三田祥雲館高校での探究学習支援や有馬高校の統計解析支援等を含む研究相談を実施した。

3-3. ROOT プログラム（神戸大学）への協力

高校・大学連携の研究体験機会を提供した。

(4) 広報・情報発信

高校や大学を主な対象とした事業の広報とともに、広報活動全般における改善策について以下のとおり検討を進めた。

4-1. 教職員・指導者セミナーの広報強化

高校教員を主な対象とした教職員・指導者セミナーの広報を、兵庫県高等学校教育研究会（科学部会・生物部会）総会で告知した。

4-2. ウェブサイト改訂（学校教育支援ページ）

研究員の専門分野や研究内容が高校生や大学生に伝わりやすいよう、ひとはくホームページの「研究員紹介」ページの充実化を図った。

4-3. サイエンスフェア in 兵庫 ブース出展

第16回サイエンスフェア in 兵庫へブースを出展し、高校生および高校教員について広報した。

（次世代タスクフォース 京極大助・衛藤彬史・高橋鉄美・山崎健史・中濱直之）

■ 新ビジョン実現タスクフォース 令和6年度の主な事業

新ビジョン実現タスクフォースは令和6年度に新規に立ち上げられたタスクフォースであり、令和4年度に公表された「ひとはく将来ビジョン2032」に書かれているひとはくの将来像の実現を目指に、事業・活動の展開や施設等整備の動きを進めていく役割を担っている。初年度となる令和6年度の分掌には、周辺オープンスペースも含んだ空間の魅力向上と活用方策の検討、エキマエアキチにおける社会実験の企画と実施、展示更新プランの作成が含まれており、本年度はこれらに関連する以下の取り組みを行った。

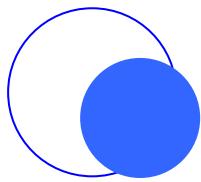
(1) ソフトプログラム「ひとはく青空実験室ナンデナン？」の実施

博物館エントランスホール周辺のオープンスペースでは、遠方からの来館者だけでなく近隣に居住する市民も気軽に参加・交流・滞留できる「そとはく」などの屋外プログラムが実施されている。こうしたプログラムをさらに充実させフラワータウンの活性化を目指すとともに、地域に根差し貢献する新たな博物館施設の在り方を模索するため、9月よりソフトプログラム「ひとはく青空実験室ナンデナン？」を同オープンスペースやコレクショナリウムで実施した（計10件）。本プログラムは、近年学校教育の場で重視されている「主体的・対話的で深い学び」「探求」などを念頭に、観察、試行、実験などの科学的プロセスを通じ、参加者の“知りたい気持ち”を刺激することを目的とする。楽しみながら“深める”、じやあこれは“なんで？”をキーワードに、普段のオープンセミナーより少し踏み込んで、メカニズムや背景にある原理、多様な視点、研究者の見方・考え方やスキル、未知の領域などを伝えることを意識しながら実施した。

(2) ひとはく展示更新プランの検討

分掌の一つである「ひとはく展示更新プランの作成」に向け、リニューアルを想定した新常設展示の基本方針ならびにコンセプト案の検討をTF内で進めた。これに関連し、3月に館内ワークショップ「これから博物館に求められる社会的役割と当館：本館（三田）での展開」を開催し、社会潮流を踏まえた本館のあるべき姿はどのようなものか、展示空間で地域や社会に何を伝えるのか、といった点について意見を集約した。

（新ビジョン実現タスクフォース 黒田有寿茂・福本 優・山田量崇・田中公教・京極大助・生野賢司）



プロジェクトと地域連携の取り組み

ひとはくでは、2002年度の「新展開」以後、館長辞令による館独自の職制を導入し、研究員が事業部やタスクフォースを兼務する体制で事業を推進してきました。更に2012年度に「ひとはく将来ビジョン」をとりまとめ、組織体制・マネジメントのあり方の一つとして、「適時チームビルディングを行う柔軟な組織体制」を掲げました。変化の激しい社会情勢に柔軟に対応するため、課題やミッションに合わせ、チームづくりや事業等のリストラクチャリングをフレキシブルに行うことができる仕組みが必要であり、2014年度より、「プロジェクト制」の導入を開始しました。これは、研究員になじみのある研究プロジェクトの方法を、事業等にも適用したもので、各研究員が自由に新規に立ち上げることができます。構成員は代表者、分担者、協力者で、ひとはくの職員に限らず、外部と協力して行うことができます。また外部資金の導入も積極的に進めています。ひとはくの活動を網羅する内容になっており、国際交流事業やシンクタンク、生涯学習プログラム、収蔵資料、学術研究など多岐にわたっています。多様な主体との連携を維持・強化するため、研究員が恒常的・定期的にアドバイスをしているもの、団体構成員となっているもの、企画・計画・実践で事業に参画している活動なども含んでいます。ひとはくでは独自に中期目標を設定し定量的な指標を用いて評価を行っていますが、プロジェクトでは、定量的に把握できない質的なパフォーマンスを表しています。

2024年度は、下記99件のプロジェクトと地域連携の取り組みを展開しました。

■ 2024年度のプロジェクトと地域連携の取り組み(計99件)

	プロジェクト名	内容
1	ジオの教室	地域の化石や地質を紹介するセミナーや展示解説を現地で実施することで、地域資源の価値を訴え、ふるさと意識の醸成を支援する。長期的には稀少資料の散逸防止にもつながるよう、博物館の役割とその重要性についても紹介する。2024年度は南あわじ市内で4回、淡路市内で2回、丹波市内で3回、丹波篠山市内で3回実施した。
2	地学系資料データベースの整備	地学系収蔵資料の適かつ効率的な管理・活用に役立てるべく、館内用「資料データベースシステム」および公開用「ひとはく収蔵品検索システム」の改善に取り組む。2024年度は、データの入力・更新を積極的に進めるとともに、収蔵資料の画像等の撮影・登録を加速させた。
3	淡路島 国営明石海峡公園との連携	展示協力、共同イベントの開催
4	香美町小代地域局との連携	共同イベントの開催
5	南あわじ地学の会との連携	活動に関する助言、講師派遣、展示協力、共同イベントの開催
6	石ころクラブとの連携	活動に関する助言、共同イベントの開催、講師派遣
7	南あわじ市埋蔵文化財調査事務所との連携	共同イベントの開催
8	ひとはくアカデミック・ステイ in 但馬	兵庫県の自然を研究者とともに学び体験出来る宿泊型学習プログラムを実施
9	連携団体が取り組む篠山層群関連各種事業の支援	篠山層群化石の調査・研究成果を活用した様々な取り組みが各連携団体によって実施されている。これらの活動を学術的観点から支援する。
10	丹波篠山市立太古の生きもの館との連携	活動に関する助言
11	兵庫県立丹波並木道中央公園との連携	活動に関する助言、共同イベントの開催
12	元気村かみくげとの連携	活動に関する助言
13	丹波市立丹波竜化石工房との連携	活動に関する助言、展示協力

14	丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会との連携	活動に関する助言、講師派遣、共同イベントの開催
15	北摂里山博物館構想の支援	「北摂里山博物館構想」の推進に向けた各種取り組みを支援し、北摂地域の生物多様性保全と地域振興を図る。具体的には、植物・植生の保全・管理手法の開発・普及、自治体への政策提言、自治体や市民団体、企業などの活動支援、児童生徒や地域住民の環境学習支援、生物多様性保全の担い手の育成などを行う。
16	棚倉町里山再生・活用プロジェクト	福島県棚倉町で里山の保全・活用に向けた各種の取り組みを行う。
17	「エスペック 50 年の森」の生物多様性調査	2022 年 11 月～植樹を開始した「エスペック 50 年の森」では、スギ・ヒノキの植林に替わり、有用広葉樹による植林を実施しているが、生物多様性の観点での効果について定量データを蓄積し、その効果を明らかにすることで、今後、全国で実施される植林活動に対し改善提案を行う。
18	「三田さくら物語」事業の支援	三田市が進めている「三田さくら物語」事業を支援するため、市内に自生するサクラ類の苗を育成する。
19	鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた検討支援	鳴門海峡の渦潮の世界自然遺産登録に向けた学術的支援、および枠組みづくり、体制づくり等の支援を行う。
20	カンサイタンポポの繁殖生態に関する研究	カンサイタンポポの繁殖生態および、累代飼育のための技術開発
21	植食性昆虫の局所適応に関するメタ解析	植食性昆虫の寄主植物利用に関連した生理的な局所適応についてのメタ解析
22	種分化過程において共存を可能とする機構についての研究	種分化の過程において生殖隔離と生態的な分化を同時にたらす機構について、従来見過ごされてきた可能性を文献調査により指摘する
23	兵庫県立宝塚北高等学校 SSH	SSH 運営指導委員として指導・助言等を行う
24	花の寿命をめぐる花粉とめしへの相互作用	花の寿命をめぐって受粉した花粉とめしへの間に利害対立があるという作業仮説のもと、花寿命を決める機構として、受粉した花粉の形質の影響を明らかにする。
25	明石公園みんなのみらいミーティングの運営およびコーディネート	明石公園の多様な利用者とともに、講演の管理方針や将来ビジョンについて話し合う「明石公園みんなのみらいミーティング」の運営およびコーディネートを行う。
26	加古川市西山地区田園まちづくり計画策定支援	加古川市内の市街化調整区域内におけるまちづくりに向けた「田園まちづくり」の計画策定に向けて、地域組織の立ち上げと運営についてのアドバイスを行う。
27	れいんぼうキッズの活動のサポート	神戸市立福田小学校区において活動する地域の子どもサークル活動にいおいて、川遊びや里山での体験活動などのサポートを行う。
28	ESD 推進ネットひょうご神戸のマネジメント	兵庫県下において ESD(持続可能な開発に向けた教育)活動を展開する 116 団体から構成されるネットワーク組織のマネジメントを行う。また、国内外の ESD 関連団体との連携促進に向けた実践活動を行う。
29	神戸市立大沢中学校における防災教育の支援活動	大沢中学校の 2 年生を対象とした防災教育プログラムにおいて、講義、グループワーク、フィールドワークのデザインおよび実施の支援を行う。
30	平谷川市民研究所	神戸市の須磨区から垂水区を流れる二級河川・福田川の流域において、福田川クリーンクラブやれいんぼうキッズといった市民団体の環境保全活動、環境教育活動を支援する。
31	神戸市・高塚山における市民活動の支援	神戸市西区に位置する高塚山において、市民団体「高塚山を愛する会」および有志の地域住民が展開している高塚山内のアクティビティおよび環境教育活動を、プロジェクトマネジメントの観点から支援する。
32	宮崎海岸浸食対策事業における市民・行政・専門家間の合意形成マネジメント	国土交通省宮崎河川国道事務所が直轄事業として進めている宮崎海岸浸食対策事業において、市民連携コーディネータとして、市民・行政・専門家の間の合意形成マネジメントを行う。具体的には、事業に関する意見交換を行う「市民談義所」のファシリテーション、および効果検証委員会などの専門家会議における市民意見の報告を担う。
33	神戸市・塩屋地区のまちづくり	神戸市垂水区の塩屋地区では住民主体による様々なまちづくり活動が展開している。塩屋まちづくり推進会のメンバーおよび各々のまちづくり活動のアドバイザーとして支援を行う。
34	明石市立図書館における妖怪と安全の研究室	あかし市民図書館および明石市立西部図書館では、地域の子どもたちに向けた「研究室」プロジェクトを展開している。「妖怪と安全」をテーマに、地域の安全マップを作成する教室を展開する。
35	JR 篠山口駅周辺まちづくりビジョン策定支援	JR 篠山口駅周辺のまちづくりビジョンの策定に向けたワーキンググループの会議および WS のマネジメントを行う。また、駅周辺において実施する社会実験の設計・実行におけるアドバイスを行う。
36	植物標本デジタル化の促進	未撮影のシダ植物標本について継続して撮影を行う。

37	シソ科タツナミソウ属の分類学的再検討	分類が混乱している日本産シソ科タツナミソウ属について再検討を行う。全国からサンプルを集めて MiGseq 解析を行った結果、コバノタツナミの多系統性と未記載種 2 種の存在が明らかになった。
38	シソ科アキギリ属の分類学的再検討	分類が混乱している日本産シソ科タツナミソウ属について再検討を行う。全国からサンプルを集めて MiGseq 解析を行った結果、コバノタツナミの多系統性と未記載種 2 種の存在が明らかになった。
39	貝殻を利用する矮小シクリッドの平行進化および側所的種分化の機構解明	タンガニイカ湖における潜水調査・資料採集、及び日本での分子解析を行うことにより、シクリッドの <i>Telmatochromis temporalis</i> 矮小型が並行して側所的種分化した遺伝機構を解明する。
40	堆積物を用いた水域の環境動態解析	堆積物やモニタリングデータから、水域生態系の動態とそれを駆動するシステムを明らかにする。都市沿岸域や湖沼、およびその集水域を研究対象地域とする。多岐にわたる分析・解析手法により研究を進めながら分野のネットワークを維持・発展させると共に、研究成果に基づいて地域の教育や環境問題に資する情報を提供する。
41	地域の地形・地質に基づく環境・防災教育の展開	大阪平野や大阪湾、淡路島、鳴門海峡など、身近な地域の地形・地質を題材とした教材を開発し、それを用いた普及・教育を展開することで、防災や環境問題についてより深い理解が地域に浸透することを目指す。
42	有殻微細生物の高分解能イメージングに関する研究	サブミクロンオーダーの複雑な微細構造を有する微化石(珪藻や有孔虫、放散虫など)の骨格・殻のマイクロ/ナノ-CT撮影により 3D イメージを構築し、形態情報を解析することで、生物進化、細胞機能を理解する。
43	但馬牧場公園連携プロジェクト運営支援	リニューアルオープンした但馬牛博物館の博物館活動、運営・マネジメント計画・体制づくり、但馬牧場公園の自然を活かした整備やプログラム運営に関する支援を行う。協力協定締結(但馬牧場公園:2022-)
44	佐用町昆虫館	廃止された旧兵庫県昆虫館の後継施設である佐用町昆虫館の運営支援。協力協定締結(佐用町昆虫館:2009-)
45	三田市有馬富士自然学習センター連携	三田市有馬富士自然学習センター(キッピー山のラボ)のプログラム運営事業の実施。事業受託・職員配置(2016-)
46	日台共同 新種発見プロジェクト	日本から台湾にかけて生息する節足動物の未記載種を発見し、新種記載を行う。
47	陸上節足動物のデジタルデータ登録	博物館に登録された陸上節足動物の写真データを、館内のデータベースに登録する。
48	兵庫県産クモガタ類・多足類標本の収集	兵庫県の生物相を明らかにするため、陸上節足動物のうち、クモガタ類・多足類を中心に標本を収集し、兵庫県の生物地理学的な特徴を明らかにする。
49	東・東南アジア地域のツユクサ科の分類学的再検討	日本・タイおよび周辺地域のツユクサ科植物約 13 属(未記載種多数)を採集・形態調査・DNA 解析し、分類学的再検討・系統・形態進化の推定を行う。今年度はタイ西部の調査と Flora of Thailand の分担部分の執筆を行う。
50	複雑な染色体の多様性を持つ種複合体ツユクサの種生物学的実態の解明	日本全国に分布する種であるツユクサを採集・形態調査・DNA 解析し、分類学的再検討を行う。今年度はデータ解析を行う。
51	植物標本収蔵環境を利用した少人数実習の開発	植物標本および収蔵室を用いて、植物の系統的・形態的多様性に網羅的にアクセスできるコレクショナリウムの環境を活かした実習・セミナーを計画・実施し、当館で植物標本を教育的に活用する方法を整備する。
52	農業特区・養父市における持続可能な農業・農村のための価値創造に関する研究	国家戦略特区の指定を受け、規制緩和をはじめとした企業による農業参入を促す養父市において、量的かつ客観的に示すとともに、さらなる躍進に向けて、新たな規制改革案や社会実験、社会イノベーション等を通じた農業・農村分野における価値創造に向けたあり方を検討し、提言する。
53	地域主体交通の立ち上げ、運営支援	日常的な移動が主に自家用車に依存する地域において、住民が主体となった送迎サービスの持続可能な運営手法を検討し、実装を支援する。
54	6 次化を通じた在来種保全	在来種の青大豆である八鹿浅黄(ようかあさぎ)、八鹿青、不来坂吉良大豆等の保全と継承について取り組む。
55	伝統的農業システムの動的保全に向けた進化メカニズムに関する日中比較分析	日本と中国の世界農業遺産地域(国レベルの農業遺産も含む)を対象に、生物学の進化メカニズムを援用しながら、内外の環境が変化する中で、伝統的農業システムの何が残り、何が変わったかを、農法、知識継承、地域資源管理等の点から複眼的に明らかにする。そして、導き出した進化メカニズムをもとに望ましい動的保全のあり方を提示する。
56	放棄地での生物多様性保全に資する集畜連携放牧手法の解明	放棄地での牛の放牧に先進的に取り組む美方郡を事例に、生物多様性保全の観点からみた望ましい放牧の実施形態の解明を目指す。
57	汚損性付着生物の防除に関する化合物の生物試験評価	人工物に付着して環境的・経済的悪影響を及ぼす海産付着生物の防除を目的として合成された化合物の付着防除活性を調べ、新規付着防除剤の開発を目指す。
58	兵庫県立西脇北高等学校との連携	講師派遣

59	兵庫県下市町の生物多様性地域戦略の策定・推進を目的とした行政支援	年1回程度の市町の生物多様性施策担当者を対象とした情報交換会を開催し、生物多様性施策担当者が博物館や近隣市町への相談や事例把握をしやすい環境を整え、そのことによって、地域戦略策定・推進に貢献する。また生物多様性地域戦略を策定した市町に対して委員等を派遣して、戦略推進に対するアドバイスを行う。またこれから戦略を策定しようとする市町の相談を積極的に行うとともに、戦略の策定の必要性を働きかける。
60	植生資料データベースの構築・公開	神戸大学発達科学部植生研究室(武田義明教授)や杉田氏より寄贈された1960年代以降に調査された国内各地の植生調査資料をデジタル化、データベース化し過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB上の公開も検討し、広く研究者、専門家が利用できるデータベースを目指す。
61	植物・植生映像資料データベースの充実化と有効活用	開館当初より収集し、データベース化している植物・植生映像資料を適正に保管するとともに、映像資料の寄贈の受入や館員による収集映像の追加によりデータベースを充実化し、過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB上の公開も検討し研究者、専門家だけでなく広く県民も利用できるデータベースを目指す。
62	ひとはく生物多様性の森を活用した市民活動・環境学習支援	深田公園の当館管理区域に位置する残存林および人工林で現在行っている里山管理および施設管理を継続し、兵庫方式の里山管理の見本林として整備する。また里山の代表的な植物を観察できる場所に整備する。安全管理上の問題もあるため、完全一般公開とはせず、里山活動を行う市民団体や行政、企業向けのセミナーや学校団体等の環境体験学習等で活用する。
63	三田市南公園 まちなか里山保全プロジェクトの支援	三田市が策定した南公園の里山公園管理計画である「まちなか里山基本方針」の実現を支援するための、人材育成プログラムに対する講師派遣やコンテンツ提供、育成された人材で結成される活動団体への支援を行う。また整備された南公園を活用して、ひとはく独自の環境学習プログラムの実施(主に特注セミナー)を検討する。
64	六甲山地東お多福山草原の保全・再生活動支援	六甲山地で最大の面積を誇る東お多福山草原において、ススキ優占の草原の面積の確保と、草原生植物の多様性を保全活動が2007年から継続している。活動団体の人員の高齢化により、草原生態系の保全の担い手の確保が難しくなりつつあることから、今後の保全活動の持続可能性を確保するための支援活動を検討する。
65	頌栄短期大学標本の登録・整理	OCR+NERを用いた標本情報入力システムの更新に伴い、標本整理をさらに加速する。
66	兵庫県産植物を中心とした植物分類学的研究	博物館活動の基盤となる資料収集の強化、及び県産の絶滅危惧種、希少種を対象とした繁殖様式、フェノロジー、系統解析等、保全に資する基礎生物学的研究を実施する。
67	AI 牧野富太郎をつくる	タツナミソウ属とアキギリ属をモデルとして、生植物の写真判定システムを制作する
68	加東市との連携と環境学習事業への支援	協力協定に基づく環境学習事業への支援、特に「加東市ノーベル大賞」の審査と講評を行う。その他、学校教育との連携による環境学習プログラム開発などを行う。
69	山陰海岸および播磨灘沿岸における海岸植生の保全推進	海岸植生の生物多様性保全に向け、現地モニタリングの他、絶滅危惧種等を対象とした発芽試験、栽培試験、系統保存、遺伝的多様性の評価等を行う。
70	兵庫県における重要植物群落の現状把握と保全推進	兵庫県内の重要植物群落の現状を把握し、環境施策や森林整備事業の企画立案に必要な基礎資料の充実を図る。収集した植生写真や植生調査資料はセミナーや展示で活用する。
71	兵庫県および周辺地域の昆虫類のインベントリーと収蔵資料の充実	兵庫県内の未調査地域や未研究グループを重点的に、県産昆虫相の解明に向けたインベントリー調査を行い、当館の参照標本の充実を目指す。
72	外来昆虫の分布拡大に関する調査	見過ごされがちな微小昆虫類を対象に、地域の外来昆虫に関する各種情報を蓄積し、在来昆虫へのインパクトを検討するための基礎資料とする。
73	兵庫県産キクイムシ類の多様性	兵庫県の森林環境に生息するキクイムシ類の多様性を把握するとともに、阪神地域の異なる公園環境におけるキクイムシ類の発生動態を解明する。
74	ひとはくのハチ類コレクション整備推進プロジェクト	ひとはくのハチ類コレクションはタイプ標本を含む日本・アジア各地の標本からなり、当館を特徴づけるコレクションになっている。更に、2015年度には4万点に及ぶ日本産カリバチ・アナバチ全種オス・メス標本の寄贈を受けた(羽田コレクション)。本プロジェクトでは、当館のハチ類コレクションの整備と更なる充実・活用を推進する。また、公開可能な標本データについては、当館HPやGBIF等で公開していく。
75	Kids サンデープロジェクト	子ども向けあるいは家族向けのイベント等を行う「Kids サンデー」を実施する。
76	「深田公園植物情報」展示等による演示プログラムの試行	4階ひとはくサロンから見える範囲での植物を観察する場所やポイントなどの情報を1~2ヶ月ごとに「深田公園植物情報」として内容を更新する(専用展示台によって、ひとはくサロンで展示)。また、深田公園を使って植物を対象とした演示プログラムを試行する。
77	年配者と地域の子どもをつなぐプロジェクト	年配者と一緒に地域の小学校や児童館などへ行くなど、地域の自然や環境、生きものについてのプログラムを実施しながら、年配者と地域の子どもたちがコミュニケーションするあり方を検討する。

78	三田市皿池湿原の保全	三田市の皿池湿原は兵庫県版レッドデータブックの A ランクに指定されている。しかし、この湿原では様々な問題(遷移の進行に伴うヌマガヤ群落や木本群落の拡大、周辺部に広がる放置里山林の照葉樹林化など)が発生しており、今後の生物多様性の減少が懸念されている。三田市と連携してこの湿原の保全を図る。
79	たつの市鶴籠山の照葉樹林の保全	たつの市鶴籠山の照葉樹林は兵庫県版レッドデータブックの B ランクに指定されている。しかし、鶴籠山はシカの生息密度が非常に高く、シカの食害による照葉樹林の衰退が大きな問題となっている。林野庁と連携してこの樹林の保全を図る。
80	ひょうごエコロコプロジェクトの推進	兵庫県内の全ての幼稚園・保育所・こども園等(約 1,500 園)の乳幼児のため、一定の専門性を踏まえた、より質の高い自然環境体験を、持続可能な形で実施できる仕組みを構築するための支援事業。県環境政策課、県内の環境施設や県立公園等と連携しながら、各園における自然体験機会の提供や研修等による人材育成、プログラム開発、園の先生のネットワークづくりなどを県全域で展開する。
81	環境系資料活用による地域支援	古写真や絵図、古地図など環境系資料を活用し、景観や地域資源、地域の歴史に関する知見の収集とマネジメントの検討、展示公開やセミナー等の実践を通じ、地域資源を活用した持続可能なまちづくりの支援につなげる。
82	ランドスケープ遺産インベントリーの記録と発信	ランドスケープ遺産(次世代に継承すべき人と土地・自然の関わりの多様な風景・空間)の保全と継承を図ることを目的に、それらの記録収集、遺産としての価値の検討、登録発信作業を進める。
83	ジーンバンク事業の推進	生物多様性保全を目的として、絶滅危惧植物等の危険回避、緊急避難、系統保存、増殖および種子保存を行う。また、生物多様性に配慮した植生・生態系の創出を目的として、地域性種苗を用いた公共用地・企業用地等における緑地形成支援を行う。また、これらジーンバンク事業の実現に必要な調査・研究、技術開発を進めるほか、ジーンファーム見学会等の実施を通じ環境学習・生涯学習支援を行う。
84	国内希少野生動植物種の保護増殖事業支援及びゲノム情報の把握	国内希少野生動植物種のうち、ウスイロヒヨウモンモドキ及びフサヒゲルリカミキリ、ライチョウ、オガサワラハンミョウ、オガサワラシジミの保護増殖事業の支援を行う。更に国内希少野生動植物種のうち昆虫類のゲノム情報を把握及び遺伝解析から近交弱勢の影響を評価し、長期的な個体群の維持を目指す。
85	里地里山に生息する在来種における遺伝的搅乱の現状把握	里地里山に生息する在来種のうち動植物に焦点を当て、集団遺伝解析によって遺伝的搅乱進行状況を把握する。
86	ジーンファームにおける生育域外保全植物の遺伝的多様性評価	ジーンファームで生育域外保全を実施している植物について、野生集団と比較してどの程度遺伝的多様性を保持しているかを解明する。
87	絶滅危惧種の植物や昆虫における遺伝情報の蓄積	絶滅危惧種や国内野生動植物に指定されている昆虫や植物について、生息域内や域外における保全活動を目的として遺伝情報を蓄積する。
88	絶滅危惧植物の遺伝資源サンプル収集	兵庫県に生育する絶滅危惧植物を中心に、遺伝解析用のサンプルを収集する。将来世代がこうした遺伝解析用サンプルを解析できるように、博物館における恒久的な収蔵を目指す。
89	博物館標本から低成本な遺伝解析手法の開発	ひとはくなどの博物館に収蔵される生物標本は遺伝情報を含んでいるものの、コストや技術のハードルから、多くの研究者による実施が困難である。本プロジェクトでは、コストや技術的なハードルを下げた遺伝解析手法を開発する。
90	オンラインセミナー「研究員による研究ばなし～ひとはくが目指す研究の最前線～」の実施 代表者	研究員による最新の研究成果を、オンラインで一般市民向けにわかりやすく紹介する。
91	ミツカンよかわビオトープ俱楽部支援	ミツカンよかわビオトープ俱楽部によるビオトープを活用した事業支援(ビオトープに関する啓発・人づくり等)を行う。
92	尼崎 21 世紀の森構想の推進支援	兵庫県の重要施策の 1 つである尼崎 21 世紀の森構想の推進に向けて、新たな 10 年のキックオフから人材養成、制度設計に至る推進支援を包括的に行う。
93	Kids キャラバン	幼稚園・保育所・こども園へ移動博物館車「ゆめはく」を活用して展示や体験型プログラムを届ける活動のコーディネートを行う。
94	地学系収蔵庫の資料整理の推進	地学系収蔵庫に保管されている資料の整理を推進し、コレクションの管理と利活用促進を行う。
95	フジツボの着生過程での微生物叢形成と環境ストレス耐性に関する研究	環境ストレス耐性が低いとされる着生前後のフジツボの幼生が、微生物叢を形成することによりストレス耐性を向上させているという仮説を実験的に検証する。
96	フジツボ-微生物共生系を繋ぐ有機化合物の同定	フジツボと微生物の共生に関する化合物の同定を行う
97	フジツボ類における蛍光タンパク質の多様性と機能の解明	フジツボ類が持つ蛍光タンパク質の同定とその機能を解明する。

98	海産外来種の国際学術会議の運営	海産外来種に関する国際学術会議(International Conference on Marine Bioinvasions)の運営を行い、海産外来種に関する学術的情報交換、共同研究プロジェクトを促進させる。
99	欧州における海産外来種の分布調査	欧州沿岸で海産外来種の分布調査を行う。